

第1回ワーキングチームにおける委員からの新たな意見

No	チーム名	施策番号	施策の内容	委員名	意見
1	C	282	障害者や高齢者など全ての人々が利用しやすい県有施設に改善するため、 <u>バリアフリー法及び埼玉県福祉のまちづくり条例など関係法令に基づき、障害者対応トイレや見やすいサイン表示などを設置し、バリアフリー化を推進します。</u>	荒井委員	福祉のまちづくりの中でユニバーサルデザインのJIS規格を取り入れることで、目標設定を明確にすること。 ①公共施設のバリアフリー化に「見やすいサイン表示」を提案したい。バリアフリー法整備ガイドラインでそのあたりがまとまっている。計画にはそのガイドラインを明記したうえで、目標設定をしたほうが良い。 ②一般トイレ、多目的トイレの公共トイレの整備について、JIS規格S 0026を導入し、計画に位置付けてもらいたい。
2	C	新規	<u>県の行政手続のオンライン化の推進に当たっては、障害の特性に応じた合理的配慮を行います。</u>	荒井委員	③行政の手続きにおいてもオンライン手続きが増えた。障害を持った方への合理的な配慮は必要であり、計画に位置付けてもらいたい。
3	A	31	投票所において障害者が投票しやすい環境づくりが進められるよう市町村に働きかけます。 <u>また、選挙広報において障害の特性に応じた情報取得ができるよう市町村に働きかけます。</u>	荒井委員	現在掲載されている施策では、投票所の環境整備について記載があるものの、選挙広報などの情報に関する支援策の記載がない。現状だと、都道府県はよくできているが、市町村はできていないところもある。県には、そのような市町村を支援する施策をしてもらいたい。
4	C	290	障害者や高齢者など誰もが快適に安心してバスを利用できるよう、 <u>ノンステップバス及びユニバーサルデザインタクシーの導入を支援します。</u>	下重委員	県はユニバーサルデザインタクシーの導入支援をしているのにも関わらず計画に掲載されていない。
5	C	201	保育所、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教職員等が様々な障害及び障害児(者)に対する理解と認識を一層深めるため、 <u>外部講師に障害当事者を招くなどの方法を含め、研修を充実します。</u>	川津委員	障害者支援計画69ページ(2)教職員等の資質の向上について、施策番号201で研修を充実していただいている部分はありがたいが、マニュアルどおりの研修では意味がない。障害の当事者の話を聞く研修が大事である。